

<暮らしの夢から“かたのサイズ”をめざす像までの流れ>

暮らしの夢

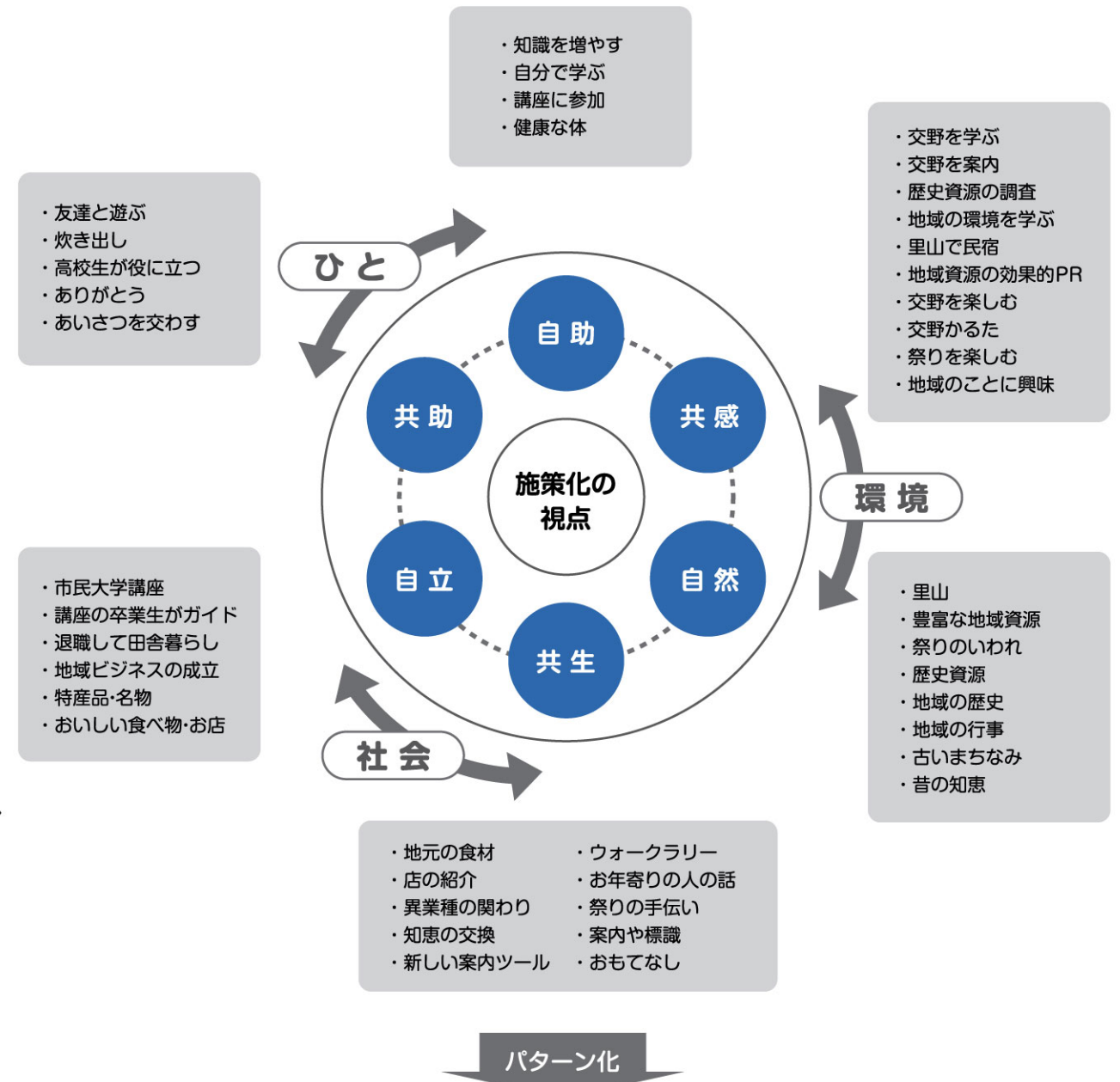
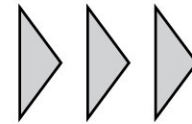
5. 地域の歴史や自然と親しみ、もてなしの心をもった暮らし

私は、市民大学講座で、交野の歴史について学んだ。
講座の卒業生でグループをつくり、来訪する外国人観光客を、古い町並みや道の駅などに案内するボランティアガイドの勉強もはじめた。交野の歴史資源を自分達で回って調べたり、山や川など地域の環境について学び、知識を増やしている。
おいしい食べ物やお店の紹介もしていこうと思っている。
(女性)

退職したら田舎暮らしをしようと思っていたら、里山地区で民宿プロジェクトが始まった。練習をかねて参加することにした。地域のさまざまな資源を外の人にどうアピールするかが私の役割になった。
ビジネスとして成立するように、農家の人や商業者、行政の人、大学の研究者などいろいろな人が関わっていて、知恵を出し合っている。
新しい案内ツールをつくって、交野を楽しんでもらいたいと本当に思えるようになってきた。
(50歳代男性)

春休みに「交野かるた」をもってまちを歩くウォークラリーがあった。配られた5枚のかるたに書いてある場所を、友達と自転車で探し回った。
ポイントとなっている場所につくと、お年寄りの人が待っていて、かるたの内容や史跡の説明をしてくださった。昼は炊き出しがあり、交野産のおにぎりと豚汁がとても美味しかった。
とっても疲れたけど、楽しかった。
(小学生)

父が腰を痛めて地元の祭の手伝いができなくなり、代わりに僕が行くことになった。何をしたらいいのかわからず、言われるままに動いた。僕は重いものを運んだが、高齢の人は手際良く仕事され、あっという間に準備ができた。手伝いをしながら、祭のいわれや地域の歴史を話してもらった。
祭の当日は友達を誘って出かけた。「よう来た」といって法被をくれた。「高校生も頼りになる。ありがとう。来年も来てな。」とってもらえた。嬉しかった。そして少し地域のことに興味が出てきた。
(男子高校生)



No.	“かたのサイズ”をめざす像
34	新たな物語や話題などが、まちを舞台にして生まれている
35	まちの魅力が一層かがやくように、効果的に情報発信している
36	人それぞれにまちの魅力を語り口コミでどんどん広がっている
37	歴史や文化財に触れてまちの魅力を再確認している
38	まちをいろんな角度から学び、体験することができる
39	地域ごとに豊かな個性があり、地元へ愛着を持っている
40	まちのあるものを探して、磨いて、魅力を生み出している
41	まち中に、心地よいおもてなしのしつらえや雰囲気がある
42	案内や散策ルートが多彩で、気軽にまち歩きが楽しめる
43	一年を通じてイベントがあり、それがつながりあっていて面白い